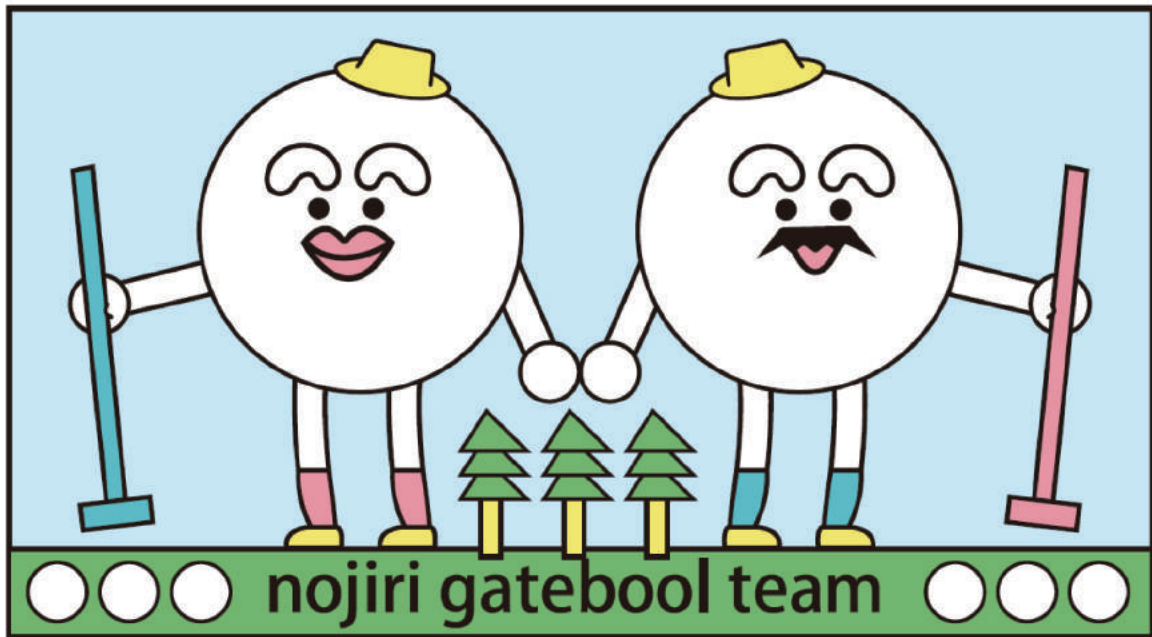


令和元年度  
大学生等による地域創生推進事業  
昭和村野尻地区 実証調査報告書



東京藝術大学大学院 箭内道彦研究室

# 1 研究室 & プロジェクト参加メンバー紹介

## 東京藝術大学 箭内道彦研究室の理念

多様な人々が生きる現在の、あらゆるメディアと  
場面で、人を、世界を、心を、  
リアルタイムに動かす映像・画像、そして実像。  
その発想および生成と実行の技術と心得を研究・  
具現化する。  
⇒「伝える」が必ず「動く」に至るべく。

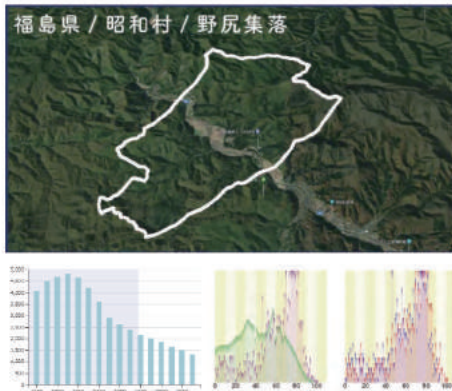
## プロジェクト参加メンバー



- ・中村茅乃(大学院1年) ・ 三町 綾(大学院2年)
- ・挟間桜子(大学院1年) ・ 洪蕾(大学院1年)

## 2 平成30年の実態調査について

### 調査地域 昭和村野尻地域の課題とされること



- ・ 人口半分超が60歳以上
- ・ 全世帯の半数が1～2人暮らし
- ・ 数年後には高齢化による地域の機能の存続が危ぶまれる

\*区長の渡部喜一さんを中心に、NPO法人苧麻倶楽部と連携し、地域として積極的に大学生の受け入れを行っている。

### 地域が望むこと

- ・大学生との継続的な関係の構築したい。
- ・最終的希望は、若者の移住が増えること。

### 東京藝術大学の学生に望むこと

大学生の視点で全国の同世代に、地方での暮らしの感動を伝えてほしい。

⇒何ができるか？

### 3 平成30年の実証実験について-1

#### 野尻の魅力をデザインした手ぬぐい製作



滞在中に出会った野尻のいろんな物・事柄をあしらったデザインと、その物事に対する感想を一言ずつ書いたグラフィックをセットにした手ぬぐいを製作。手ぬぐいを通して野尻の魅力と人々の温かさが伝わるデザインを心がけた。





地域の人々に魅力を再認識してもらう



野尻の魅力を伝える手ぬぐいを地域で配布し、地域内でも魅力を再認識してもらう。訪問客からも愛される地域だと改めて実感してもらい、感謝の気持ちを伝えた。

ドキュメンタリー映像を製作・上映



限界集落と言われる地域にしかない都会にはない幻の幸せと楽しみをテーマに野尻の温もりを伝える約7分間のドキュメンタリー映像を製作、東京藝術大学とWEB上サイトで上映。共感を得た。

### 3 平成30年の実証実験について-2

#### アパレルブランドとのコラボレーションによるPR



- ・大学 × 企業 × 自治体による「共働」
- ・企業からの衣装に提供
- ・出演者全員が集落の住民の皆さん
- ・オール昭和村ロケで、撮影を敢行

アパレルブランドの商品のPRを地域のPRもかねて映像を製作。  
東京新宿の店舗・オンラインストア、福島県施設・YOUTUBEチャンネルで実際に上映され、野尻地域の魅力が地域外の人々の目に触れる機会ができた。



## 4 令和元年の実証実験について-1



### 地域活動の応援・アートプロデュース

地域内のコミュニケーションツールとして中心的活動であるゲートボールチームの活動。

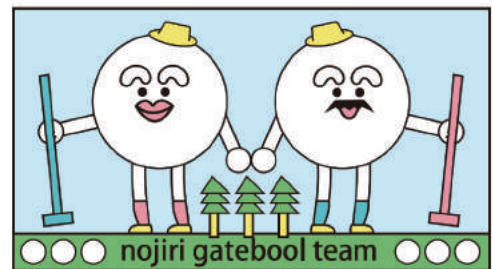
週に何回も活動し、外部の試合に参加するほど活発なゲートボールチームに、ゼッケン、帽子、メダル、賞状などのオリジナルグッズをデザインし製作した。

地域のシンボルを作ることで、地域に既に住む人々・これから訪問する人々へ親しみやすい良いイメージを与えることを目指した。

・ゼッケンデザイン詳細



・帽子デザイン詳細



・ゲートボール大会のメダル・賞状







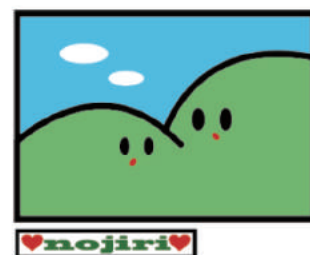


## 4 令和元年の実証実験について-2

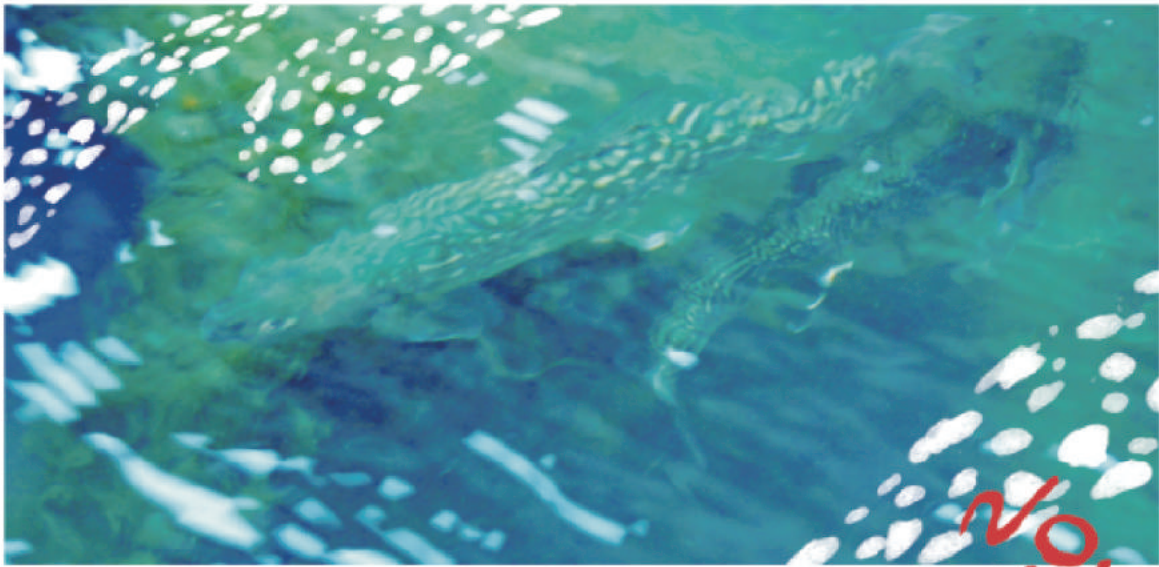
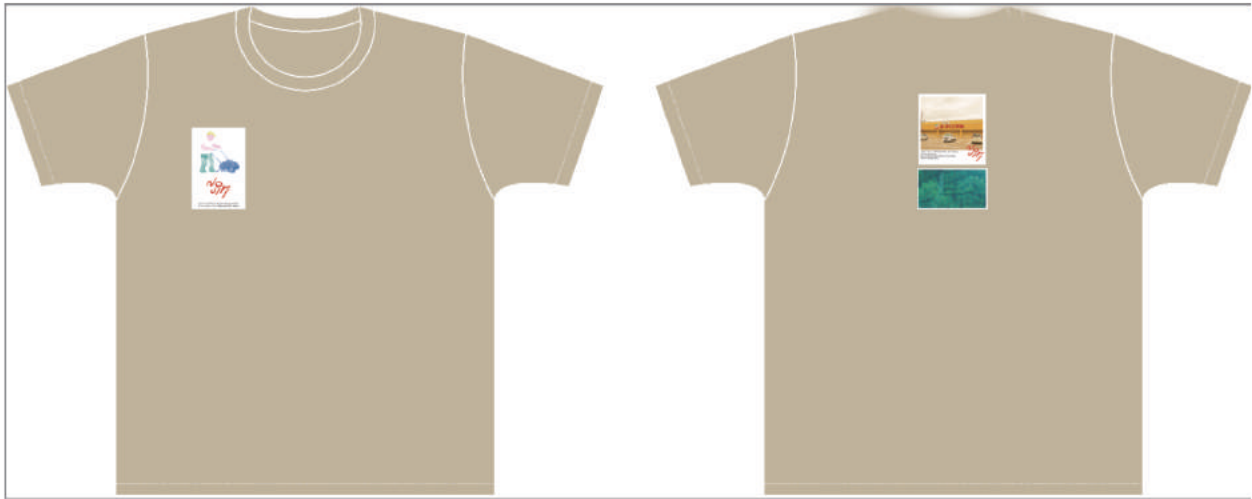
地域の魅力をTシャツに、住民をモデルに魅力を紹介



滞在中の野尻地域の魅力を学生一人一人がそれぞれの表現方法でグラフィックに落とし込み、それをTシャツにプリント。オリジナルTシャツを住民の方々に着用してもらい、モデルとしてスチールを撮影。



・Tシャツデザイン詳細



19.07.12 sat 08:43 Fukushima Show-wa Nojiri © House of Tsune San / *Iwana that will be released to the river soon.*



nojiri

19.07.12 sat 09:51 Fukushima Show-wa Nojiri  
© Ysune San's Field / *Polow the Fird, Tsune.*



19.07.11 fri 11:20 Fukushima Aidu-Tajima  
© York Benimaru /  
*Get to Nojiri in less than an hour drive  
from York Benimaru.*



## 5 あとがき

東京藝術大学・箭内道彦研究室としての参加は2年目であったが、1年目からの参加者は1人となりほとんどが今年からの新しい参加者となった。それでも野尻地域の皆さんは2年目の学生として身内のように受け入れてくださった。

地域が持つ課題とされることを真に解決することは外部の者にはできないと1年目に感じたが、2年目となった今年に感じたことは、研究室と地域の密着が進み、研究室の学生にも地域の課題を自分ごととして考えることを地域の人々に許される環境がこの先整っていくのではないかとということだ。

地域問題に取り組もうとするプロジェクトは東京にも山ほどあるが、実際に地域の人々に受け入れられているプロジェクトがどれくらいあるだろうか。受け入れられ、地域の人々が能動的に賛同しなければ真の解決とは言えない地域問題に、形だけではなく向き合えている団体はどれほどいるだろう。

こうした実態を感じる経験ができ、先輩がした体験を学生に直接後継されながらプロジェクトに参加できる研究室としての体形は貴重なプロジェクトの形であり、数年後には有意義に機能するようになるのではないかと感じた。

なによりも、東京にはない幸せ・楽しみが野尻にあるということを知って社会人になることと知らないで社会人になることでは価値観の広さに雲泥の差があり心の在り方、社会の捉え方全てに影響していくだろうと実感している。

これからも貴重な活動を続けていけるよう、後輩への後継と地域の方々とのコミュニケーションを図っていきたい。